

## 京都産業大学総合生命科学部（仮称）概要資料

### 学科構成

- 1 生命システム学科（定員45名）
- 2 生命資源環境学科（定員35名）
- 3 動物医科学科（定員35名）

### 教育理念

#### 1 生命システム学科

生命を個々の分子に還元して理解するだけでなく、個々の分子の機能を解析し、分子・細胞・組織・個体レベルにおける生命活動を統合的に、すなわち「システムとしての生命活動」を理解するための教育を行う。統合システムとしての生命に対する深い基礎知識に根差した人材を育成することによって、理学・医学・薬学などの分野に応用・適応できる研究者、技術者を養成することを目的とする。就職先としては、製薬・食品・化粧品関連企業、医療・健康機器メーカー、中学・高校をはじめとする各種学校などが考えられる。また大学院進学を奨励し、大学や政府関連研究所における研究職に従事できる研究者の養成を積極的に進める。

#### 2 生命資源環境学科

動・植・鉱物を問わず、地球は豊かな資源によってわれわれ人類の生を可能にしている。しかし、人口の増加と人類のあくなき生活水準向上の追求の結果、地球資源の枯渇と地球環境の悪化を招くことになった。限られた資源を最大限有効に活用し、かつ地球環境を破壊しないで人類の未来を担保するために、特に動物と植物のインターフェイスにおける生命資源の活用戦略を探るための基礎教育を行う。薬学・医学・農学・食品・水産などの分野においてそれらの知識を応用できる研究者・技術者を育成することを目的とする。就職先としては、製薬・食品関連企業、化学メーカー、環境エネルギー関連企業、中学・高校をはじめとする各種学校などが考えられる。また大学院進学を奨励し、大学や政府関連研究所における研究職に従事できる研究者の養成を積極的に進める。

#### 3 動物医科学科

鳥インフルエンザ、各種脳炎、狂犬病やプリオン病などの人獣共通感染症は国際的な問題である。また製薬業界における各種薬品の安全性及び様々な食品の安全性の確認の為の、信頼性の高い動物実験の社会的要求度も高い。本学科では、飼育動物及び野生動物の様々な感染性疾患の解明、実験動物学・動物病理学の基礎及び応用面における徹底的な教育に力点をおく動物医科学の教育を行う。感染症に精通し、実験動物の適切な管理ができる技術者を育成し、製薬企業等各種化学企業や食品企業、動物病院などに技術者として送り出す。